

公益財団法人東京防災救急協会第16回理事会議事録

1 会議の概要

- (1) 開催日時 平成25年6月4日(火) 11時から11時51分まで
- (2) 場 所 スクワール麹町5階会議室 東京都千代田区麹町六丁目6番地
- (3) 理事総数 27名
- (4) 定足数 14名
- (5) 出席した理事数及び氏名 21名
理 事 長 関 口 和 重 副 理 事 長 佐 竹 哲 男 専 務 理 事 野 口 英 一
理 事 荒 井 伸 幸 理 事 有 賀 雄 一 郎 理 事 小 川 紘 一 郎
理 事 尾 世 敏 彦 理 事 片 岡 俊 彦 理 事 川 島 毅
理 事 國 吉 昌 良 理 事 窪 田 俊 治 理 事 島 崎 修 次
理 事 嶋 田 昭 平 理 事 関 口 憲 一 理 事 西 澤 裕 司
理 事 野 中 博 理 事 東 尾 正 理 事 藤 本 慎 誠
理 事 古 谷 聡 理 事 丸 山 裕 弘 理 事 村 上 研 一
- (6) 出席した監事数及び氏名 1名
監 事 飯 塚 隆 雄
- (7) 議事等
常勤理事職務状況報告
第1号議案 平成24年度事業報告について
第2号議案 平成24年度決算報告について
第3号議案 基本財産の運用について
第4号議案 第16回評議員会(3月期)の招集について
報告事項 第17回臨時理事会の開催について
- (8) 議長
理 事 長 関 口 和 重

2 会議

- (1) 会議の運営等
海藤芳和事務局長から、次の内容について報告した。
ア 定款第32条に基づき、理事会の議長は理事長が当たる。
イ 理事現在員27名のうち、出席理事21名、欠席理事6名であり、理事の出席人数は、定款第33条第1項に基づく過半数を満たしている。また、議案に関し特別な利害関係を有する理事はいない。
ウ 理事会の議事については、定款第34条第1項に基づき、議事録を作成する。
この議事録には、定款第34条第2項に基づき、出席した理事長及び監事が記名押印する。
- (2) 議事の経過の要領及びその結果

定刻、関口和重理事長が議長席に着き、本理事会は定款第33条第1項に定める定足数を満たしており、適法に成立していることを告げ、報告の聴取と議案の審議に入った。

ア 常勤理事職務執行状況の報告

(ア) 関口和重理事長の職務の執行状況

平成24年度は各種講習や博物館・防災館の運営管理を積極的に推進し、社会情勢の変化を踏まえ、ツイッターやフェイスブックによる情報提供、情報誌「自主防災」や「てあて」等で都民に、情報発信すると共に、これらを取り入れた各種事業を実施した。

また、救急事業部の事務室整備及びホームページのリニューアルの実施及び震災をテーマとした講演会の開催や関東大震災関連の調査研究を実施した。

平成25年度は、「小規模社会福祉施設の防火実務講習会」や「国際消防防災展2013」の開催を捉えて防火・防災及び救急に関する普及啓発を図る。特に大規模事業所における効果的な救助・救急講習を実施するため、講習内容、教材等について調査研究をすること。引き続き、都民のニーズの変化等を踏まえ効率的な事業を図っていくことを報告した。

(イ) 佐竹哲男副理事長の職務の執行状況

初めに経営状況については、平成24年度の決算が合併後、2回目の年度を通した決算であり、事業及び財務全体の把握が可能になり財団運営の基本形態を作り上げることができた。平成24年度の協会事業規模は、前年度と比較して約4千万増の22億7千7百万円余であり、この内、公益目的事業費も前年度比2千3百万円増の約15億9千万円余で公益目的事業の充実を図ることができた。

また、協会全体の資産である正味財産期末残高も前年度比約3千万円増となるなど協会体力の増強を図ることができた。

次に、平成24年度防災事業本部の執行状況は、防災館及び博物館の来館者数は、479,247人を数えた。ここ10年一貫して右肩上がりの傾向となっており来館者確保のため、タイムリーで質の良い情報発信に努めている。平成24年4月から上映している東日本大震災を題材とした「3.11私たちは何を経験したか」は大きな反響を得ている。

また関東大震災に係る資料を収集・集約・集積した「関東大震災1923年、東京は被災地だった」を発刊し、本年9月の防災週間に情報発信の1つとして活用していく。

平成24年度事業として進めてきた小規模社会福祉施設の防火実務講習会の立ち上げのための取組については、3回のモニター講習会を実施し、この講習に対して東京消防庁、東京都福祉保健局、全国グループホーム協会東京支部の後援を得て、本年7月から年間30回1,200名を対象に講習を開始することを報告した。

(ウ) 野口英一専務理事（救急事業本部長）の執行状況

救命講習では、平成24年度は、安心安全を求める救命への認識の高まりの中、地域及び事業所と密接に連携するとともに東京マラソン財団と連携した1190人の大規模救命講習の実施、東京都教育庁と連携した都立高校生に対する上級救命講習の実施など年度内救命講習受講者は、対前年度比5.7%増の244,347人です。

応急手当普及啓発教科書作成委員会を開催し、救命講習に関するインストラクターガイド、視聴覚障害者用テキストを作成した。

搬送事業では、平成24年度の虎ノ門搬送センターでの患者搬送事業及び多摩小児総合医療センターにおける小児、新生児のドクターカー運用に加え、東京都福祉保健局からの委託を受け、精神患者の緊急搬送事業を行った。本搬送事業は、年度内で1400件余りの事案があり搬送先医療機関、患者並びに家族から適切、確実な運行に対して高い評価を得ている。

さらに、本年は大鵬親方の通夜、告別式における医療警戒、ドイツ共和国大使館のイベントに関する医療警戒、インド首相来日に伴うプライベート救急隊の実施等民急をベースとした新たな救護機能として拡大を図っており、今後、民急による医療警戒の先駆的役割を推進していくことを報告した。

以上、常勤理事3名の報告について質問等がなく了承された。

イ 第1号議案 平成24年度事業報告について

ウ 第2号議案 平成24年度決算報告について

議長から第1号議案と第2号議案は密接な関係にあることから一括して審議する旨の発言があり、事務局に説明を求めた。事務局長が第1号議案の提案理由を読み上げ説明した。続いて、滝川貴樹経理課長が第2号議案の提案理由を読み上げ説明した後、議長が監事に監査報告を求め、飯塚隆雄監事が監査報告をした。

第1号議案、第2号議案及び監査報告について議長が賛否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

エ 第3号議案 基本財産の運用について

本議案について、議長から事務局に説明を求め、事務局長が提案理由を読み上げた後、第3号議案について議長が諮り、本件は原案通り異議なく全会一致で決定した。

オ 第4号議案 第16回評議員会（3月期）の招集について

本議案について、議長から事務局に説明を求め、事務局長が提案理由を読み上げた後、第4号議案について議長が諮り、本件は原案通り異議なく全会一致で決定した。

カ 報告事項 第17回臨時理事会の開催について

本報告事項について、議長から事務局に説明を求め、事務局長が報告内容を読み上げた。

11時51分、議長は審議を終了したので、閉会を宣言した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人は記名押印する。

平成25年6月4日

議 長 理事長 関 口 和 重

議事録署名人 監 事 飯 塚 隆 雄

